

随筆

会員のコーナー

世界最古の“ドゥロス号”

金沢支部 田村 謙治

金沢港に寄港している世界最古の“ドゥロス号”を見学してきましたので紹介します。

1914年（大正3年）建造

船舶名：メディナ号→ローマ号→フランカC号
→ドゥロス号

貨物船→移民船→客船→洋上書店船

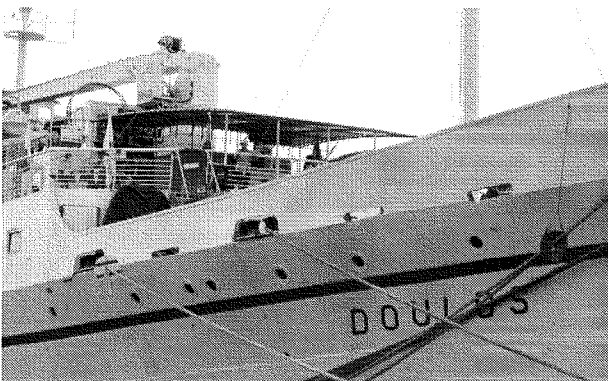
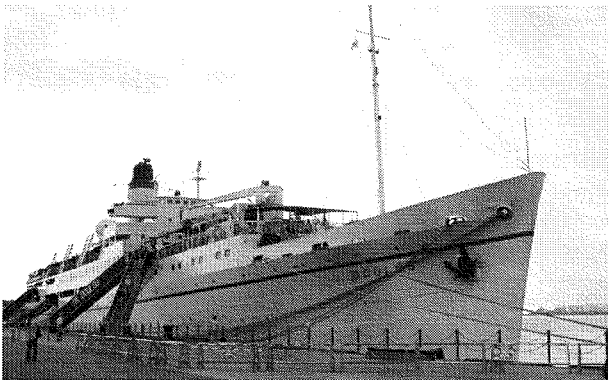
エンジン：蒸気タービン

→ジーゼル・エンジン（1922年）

燃料：石炭→重油

大正、昭和、平成の幾多の激動の時代を船主、形態、用途を改造の積み重ねで今日も現役船として活躍している事に感動、感激しました。大改造は世界からのボランティアの技術者が集まり完成、古い物を大事に使う心が伝わってきますよね。93年の歴史の重みを感じさせる汽船です。

- （注） 1.ギネスブックに登録
2.ドゥロス：ギリシャ語「仕える者」
3.乗組員：350名
（世界から集まったボランティア）
4.撮影日：2007年5月29日



蛸の鳴く街

金沢支部 明石 弘貴

ある夏の日の黄昏時、私とSは大阪ミナミ、の人通りの多い雑踏を避けて、比較的人影の少ない裏通りを歩いていた。それはいつもと同じような二人の時間だった。

Sは、通り過ぎる人達の足元だけを見ているかのように視線を落としたまま、

「ね、私たちって、これからどうなるんだと思いますか。私ね、この頃あなたこうして会うと、すごく不安になることがあるんです。あなたは、そんなことないですか。」

Sは私との会話の中で、敬語が混じることはこれまでもよくあった。

「僕は君と会っていたい、それだけだよ。」

Sは続けて、「私たち、去年の秋に仕事の関係で知り合ってから、こうしてよく会ってきたわ。会って一緒に過ごしているのととても楽しかった。でも、この頃ふと考えることがあるのよ。私たち、こうして会っていて、これからどうなるんだろうって、あなたは、そんなことを考えることはありませんか。」

「うーん、あなたはこうしてほしいとか、何かを言っていたらいいとか、そんなことじゃないの。今もあなたのことはとっても好きよ。こうして一緒にいることが楽しいわ。でも、だから不安なの。すごく不安なの。私たちどうなっていくんだろう。どうにもできないんじゃないかしらって考えるんです。」

私は「いつか一緒になろう。」という言葉が発しそうになったが、Sはそんな言葉で納得するような単純な女でないことはよくわかっていた。私が、次の言葉を探せずにいると、Sは抜いてしまった刀を振り下ろすしかないかのように、

「私たち、もう会うのをやめましょう。あなたのことは、今も好きだけど、だからもう会わないほうがいいと思うの。」

「どうして。できないよ。そんなこと。」

「お願い。分かって。」と、Sは短くも強い決意の言葉を私に投げたかと思うと、そのまま雑踏の中に走り去った。

Sが雑踏の中から、いつものように明るい笑顔でこちらに走って戻ってくるのではないかと、私は雑踏の方向を見て、いつまでもその場に立ち蓋くしていた。

どこからともなく、蛸の鳴く小さな声。

「こんな都会の中に蛸が。」

私は、思わず黄昏時の都会の空を見上げた。

…あなたの声が聞きたい夜

都会の雑踏…

民法の勉強を！

金沢支部 藤井速生

今、私たちの業務の一環として市民のため求められているのは、①遺言書②相続問題であることは皆さんもご承知の通りだと思います。

さて、私も、もう80才を迎えております。まずは、己の遺言書を作成しました。又、相続関係も明記してあります。それには皆さん行政書士試験にもあった通り、再度民法を何度も読み研究されればおのずと解決致します。このことは日常生活業務にも大事な有意義な存在ともなります。

もとより、金沢支部では集中講義を開かれて、更なる業務理解を深めることも重要かと思えます。石川県行政書士会全員一丸となって実現されることを望みます。

短歌 輪島支部 大森 千歌子

松山にて

漱石の愛したという温泉の

足湯に浸かり往時を偲ぶ

松山の街を歩けばあらこらに

坊らんマドンナ笑顔で迎う

道後にて傷を癒せしシラサギの

由来読みつつ我も癒やさる

